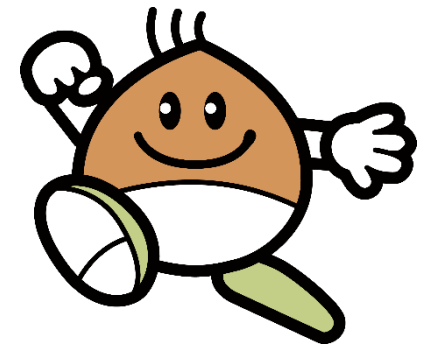


栗東市認知症初期集中支援チームの 活動状況および今後の方向性について



目的

栗東市認知症初期集中支援チームとは

認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域で暮らし続けられるように、認知症の人やその家族に対する初期支援を包括的かつ集中的に行い、本人の視点（本人の思いややりたいこと、これまでにしてきたこと等）を大事にした、本人らしい暮らしの実現に向けた支援をチームで考え、様々な方法でアプローチをするため、「認知症初期集中支援チーム」を配置するとともに、早期診断、早期対応に向けた支援体制を構築する。

概要

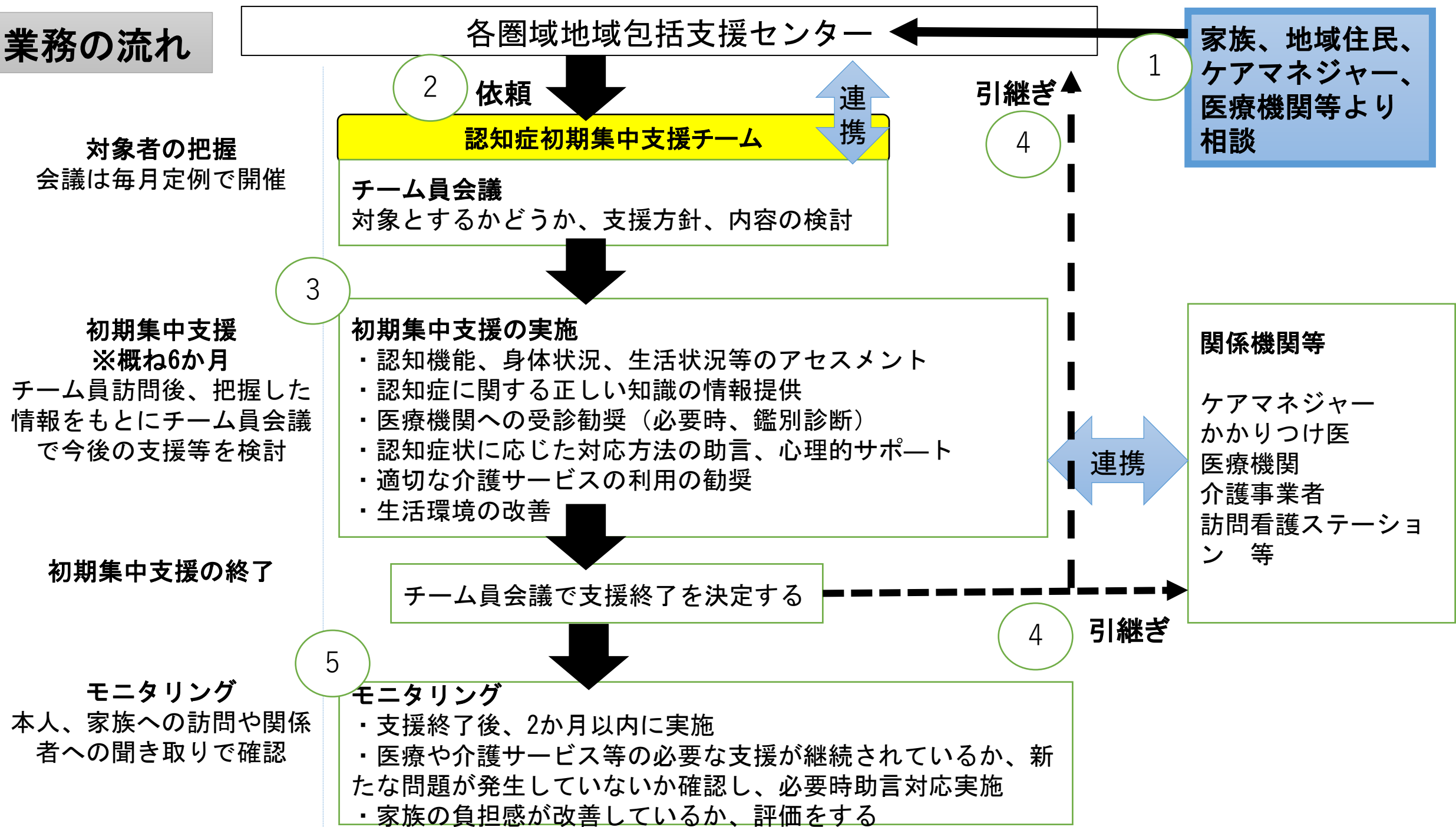
医療・介護の専門職で構成される「認知症初期集中支援チーム」が認知症（疑いを含む）の高齢者や家族を訪問し、認知機能や身体症状、生活状況の確認を行い、チーム員会議でのアセスメント、方向性に基づき、本人・家族に寄り添った支援や個々に応じた必要なケア等に繋いでいきます。

【支援対象者】

40歳以上で、在宅で生活しており、かつ認知症が疑われる人又は認知症の人で、次のいずれかに該当する者。

- ①医療サービス、介護サービスを受けていない人、または中断している人で以下のいずれかに該当する者
 - (ア) 認知症疾患の臨床診断を受けていない者
 - (イ) 継続的な医療サービスを受けていない者
 - (ウ) 適切な介護保険サービスに結び付いていない者
 - (エ) 診断されたが介護サービスが中断している者
- ②医療サービス、介護サービスを受けているが認知症の行動・心理症状が顕著なため、対応に苦慮している者

業務の流れ



活動実績と訪問回数

	H29度 (9月開始)	H30年度	R元年度	R2年度
	支援対象者	支援対象者	支援対象者	支援対象者
栗東圏域	0	1 (0)	1 (1)	1 (0)
栗東西圏域	1	5 (1)	2 (1)	2 (1)
葉山圏域	2	2 (2)	1 (0)	1 (0)
合計	3	8 (3)	4 (2)	4 (1)
延支援対象者 訪問回数	13回	27回	10回	18回
専門職 訪問回数	看護師3回	看護師16回	看護師6回 作業療法士2回	作業療法士10回
包括訪問回数				

※ () 内の数字は前年度からの継続件数

活動実績と訪問回数

	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
	支援対象者	支援対象者	支援対象者	支援対象者	支援対象者
栗東圏域	2 (0)	5 (1)	4 (2)	1 (1)	2 (0)
栗東西圏域	1 (0)	2 (1)	2 (1)	2 (1)	0
葉山圏域	2 (1)	2 (1)	2 (1)	0	1 (0)
合計	5 (1)	9 (4)	8 (4)	3 (2)	3 (0)
延支援対象者 訪問回数	20回	67回	34回	6回	35回
専門職 訪問回数	作業療法士10回	作業療法士9回	作業療法士10回	作業療法士1回	作業療法士9回
包括訪問回数			24回	5回	26回

※ () 内の数字は前年度からの継続件数

チーム員支援から見えてきた課題と成果

R5年度～の課題	方向性	R7年度の実践状況
・地域への認知症理解に向けた支援	・既存の認サポ等の内容も精査し、本人の行きつけの商店等には具体的な対応方法を提案できるようなメニューも検討していく。	<ul style="list-style-type: none"> ・認サポでの事業説明 ・認知症カフェへのキャラバン・メイト派遣等を通じた機能強化 ・認知症カフェの立ち上げ・継続支援 ・市内企業等への能動的訪問
・認知症本人の思いを中心においたトータル的なアセスメント	・より幅広い視点で本人の生活状態を捉えられるよう、作業療法士を中心にチーム員会議の場でICF(※1)指標の活用を進めていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・見立てシートの活用 ・作業療法士でアセスメントを行い、ICF指標を活用、CTSD(※2)による本人の機能評価
・認知症初期集中支援の検討ケースの件数	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジャーへの周知に向けたケース集約 ・初期ケースの把握に向けた包括の相談窓口機能の拡充 	<ul style="list-style-type: none"> ・チラシ改良、啓発ブースでの配布 ・事例集の作成 ・認知症カフェ・市内企業・市民団体等との連携体制強化

R5年度・6年度・7年度の課題	R8年度の方角性
・認知症初期集中支援の検討ケースの件数	<ul style="list-style-type: none"> ・初期ケースの把握に向けた包括の相談窓口機能の更なる拡充 ※アセスメント能力の向上と介入タイミングの早期化

※1 国際生活機能分類のこと。その人の生きることの全体像を捉え、立場・分野の異なる関係者が対象者を共通理解するための手段。

※2 認知機能検査のひとつ。これまでの認知機能検査と比べ、特に重度認知症患者の残存機能を評価できる。